



——じいじ・ばあばのための孫育て応援ブック——

令和元（2019）年11月発行

発行人／広島県健康福祉局 子育て・少子化対策課
TEL. 082-513-3171

広島県プラチナ世代支援協議会事務局
TEL. 082-513-3198

〒730-8511 広島市中区基町10-52

生協ひろしま

じいじ・ばあばの孫育て事務局（組合員サービスセンター）

☎ 0120-500-935

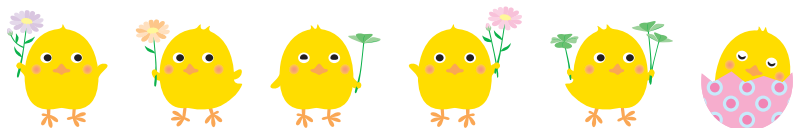
じいじ・ばあば
のための
**孫育て
応援ブック**

うちの子も、よその子も
地域ぐるみで応援しましょう



目次

はじめに	1
知っておきたい子育て事情	
● 妊娠期	2～3
● 出産期	4～5
● 乳児期（お世話編）	6～7
（食事編）	8～9
● 幼児期	10～13
● 学童期	14～17
子育て世代からのひとこと	
ありがとう	18
ちょっと切ない	19
祖父母世代からのひとこと	
ありがとう	20
ちょっと切ない	21
ボランティア窓口・子育て支援のサークル	22
県内シルバー人材センター	23
気軽にできる遊び紹介します	24
困ったときは	24
広島県の子育てポータル イクちゃんネット	25
活動紹介	
〈地域〉地域で子育てを応援するプラチナ世代	26～27
〈企業〉生協ひろしまの取り組み	28
〈団体〉孫育て検定協会の取り組み	29



子供の誕生は とても幸せな出来事。

子育て家庭が笑顔になるために、
みんなで一緒に子育てしましょう。

少子化が進み、共働き家庭が増えたことで、子育て環境は大きく変化しています。

相談相手が得られず不安を感じていたり、仕事と子育ての両立に悩んでいるパパ・ママも少なくありません。

そんな中で、豊富な知恵と経験を持つ「プラチナ世代※」の存在は、子育て世代にとって心強いサポーターとなるでしょう。そして、プラチナ世代にとっても、子供達との関わりは、社会参画や生きがいづくりにつながり、また、孫世代にとっても優しい心をはぐくむなど、さまざまなメリットがあります。

広島県では、子供を社会の宝として大切に、みんなで子供と子育てを応援する取組を進めています。

プラチナ世代のみなさんにも、お孫さんや地域の子供達に対して、見守り、語りかけ、健やかな成長と一緒に応援していただきたいと思います。

このガイドブックは、子育ての方法が時代とともに変化していることや、生活習慣や価値観の多様化から、求められる支援にも違いがあることなどを紹介しています。

子育ての主役である両親の気持ちに寄り添い、そして祖父母世代も楽しめる子育てサポートを実践していただくためのきっかけになれば幸いです。

ぜひ、皆さんの力で、地域における「イクじい」「イクばあ」の輪を広げてください。

広島県



※広島県では現役世代を含めた概ね55歳以上の方々を「プラチナ世代」と呼び、県民の皆様がプラチナのように輝き続けられる環境づくりを推進しています。

知っておきたい子育て事情 妊 娠 期

妊娠初期は…

妊娠初期はとてもデリケートな時期。ママの体調がすぐれないこともあります。嬉しい気持ちはみんな同じですが、体調が落ち着くまではそっと見守ってあげましょう。お祝いはママとお腹の赤ちゃんが安定してきてからでも遅くありません。

つわりは辛いもの

つわりの症状は一般的に妊娠中のむかつきや吐き気、嘔吐、食欲不振などですが、人によってだるさや眠気、風邪のような症状が起きるなど、個人差があるのが特徴です。

この時期は食事ができなかったり、家事をするのもおっくうになりがち。様子を見ながら、手伝いに行きあげるのがよいでしょう。そのときは、連絡を忘れずに！



出産予定日は目安

出産予定日が近づいて待ち遠しい気持ちがあっても、「まだ？」の言葉はプレッシャーになります。特に予定日を過ぎると、パパやママの不安も大きくなってくるので、優しく見守りましょう。

また、今は早くから性別が分かる場合も多く、祖父母としても気になる場所ですが、はやる気持ちは抑えて、パパやママから報告があるまではそっとしておきましょう。

出産前後を過ごす場所は…

「どこで出産し、どこで産後を過ごすのか」、「実家に帰るのか、帰らないのか」が気になる場所ですが、さまざまなケースがあるので、どれがよいとはいえません。妊娠中や出産後の体調や赤ちゃんの発育等により、考えが変わることもあります。パパとママが一生懸命考えて選んだことです。これから赤ちゃんを育てていく2人の選択を尊重してあげてください。

知っておきたい子育て事情 出産期

出産時のママ・パパへの気遣い

わが子の誕生の瞬間に立会うことは、とても幸せなことです。パパはママの気持ちに寄り添いながら、親になる喜びを二人で分かちあうことができます。赤ちゃんが生まれたかどうかは、とても気になりますが、パパとママからの連絡を待ちましょう。

また、産後のお見舞いはママと赤ちゃんの負担にならない程度に。回数が多すぎたり、滞在が長すぎるのは避けて。風邪気味の時は控えましょう。

出産後のサポートを

退院後はペースがつかめず、ママも疲れがたまります。授乳やおむつ交換などの赤ちゃんの世話はパパやママに任せて、祖母は家事や身の回りのことを手伝うなど、ルールを決めてサポートしてあげましょう。なんでも手伝ってしまうと、後で困るのはパパとママ。早く赤ちゃんを中心とした生活に慣れるよう、温かく見守りましょう。



母乳？ミルク？どちらでもOK

『母乳』は、多くのママが悩んでいます。多くのママが今、『母乳』で育てたいと考えていて、そのため母乳が出なかったり出にくかったりすることについての悩みが増えています。また、じいじ・ばあばも、一緒になって心配して、『なぜ母乳が出ないの？』とか『母乳は充分出ているの？』と、ママを追い詰めてしまっていることが多くあります。母乳・ミルクどちらを選んでもかまいませんが、大切なのは、ゆったりとした気持ちで育児ができることです。じいじ・ばあばは寄り添う気持ちで見守りましょう。



マタニティブルーって？

出産直後から数日間は、ホルモンの変化や慣れない育児の疲れから一時的に気分が変わりやすくイライラしたり、突然不安になったり、涙もろくなったりすることがあり、「マタニティブルー」と言われています。2週間くらいで自然に落ち着くことが多いのですが、「1日中気分が沈む」「母親としての資格がないと感じる」「疲れがとれない」、食欲の低下または増加、不眠などが続くようなら、「産後うつ病」の可能性あります。

ママの気分が沈んでいる、いつもと違うと気づいたときは休養を促したり、必要なときは医師や助産師などに相談をすすめましょう。

一番大事なことは、目の前にいる『赤ちゃんの心』です。授乳タイムは、赤ちゃんにとって、ママからの『心の栄養』が、たっぷりと届く時間になってください。

知っておきたい子育て事情

乳児期

お世話編

抱っこしてあげて

泣いたからと言ってすぐに抱くと「抱き癖がつく」と言われていたのは昔の話。

抱くことが癖になることはありません。赤ちゃんは抱っこされることで心が安定し、情緒豊かに成長していきます。

赤ちゃんが泣いて求めているときは、積極的にしっかりと抱いてあげましょう。ママが疲れているときこそ、じいじ・ばあばの出番です。たくさん抱っこしてあげましょう。



スキンケアの基本は

以前はおむつ交換時や沐浴の後、ベビーパウダーをつけていましたが、パウダーが毛穴をふさいでしまい、かぶれや湿疹の原因になることもあるため、最近は使われなくなっています。

おしりのスキンケアは、早めのおむつ交換も効果的。まずは、肌を清潔に保ち、快適にしてあげることを心掛けましょう。

命を守るチャイルドシート

6歳未満の乳幼児にチャイルドシートの使用が義務付けられています。成長に合わせて乳児用から幼児用まであり、祖父母の車に乗るときも必要です。「泣いてかわいそう」と思わずに、子供達の安全のために装着しましょう。

外気浴とお散歩

今は、赤ちゃんに日光浴させるより外気浴を勧めています。日光浴とは体に日光を受けさせることで、外気浴とは、自然の空気に触れさせることです。日光浴を勧めなくなったのは、昔に比べて今は、紫外線が強くなっているからです。赤ちゃんは、大人に比べて皮膚が薄いため、紫外線からの影響について重くみられています。

外気浴をすることで、赤ちゃんの外の環境への適応力が作られます。ずっと一定の温度の中で赤ちゃんを過ごさせてしまうと、外の環境に体が適応できなくなります。外に出ると、熱いと汗を出したり、寒いと手足が赤くなったりして、体温を一定に保つための練習ができます。また、呼吸器系を強くし、新陳代謝を促すという効果もあります。

生後1ヶ月を過ぎたころから、窓を開けて光や新鮮な空気を部屋に入れたり、5分くらい外に出ることから始めましょう。



食事編



おっぱいの卒業は 赤ちゃんのペースに合わせて

以前は、およそ1歳を目安に、親の判断で母乳をやめるように勧められていましたが、現在では赤ちゃんの方から自主的にやめる「卒乳」が主流。

母乳を必要としなくなる時期には個人差があり、おおよそ12～18か月と幅を持たせているので、できる限り赤ちゃんのペースに合わせてあげて。



はちみつは 1歳を過ぎてから

栄養価が高いといわれ、以前はどんどん与えていたはちみつですが、熱処理加工されていないものには、まれにボツリヌス菌という細菌が入り込むことがあり、免疫力が弱い1歳未満の乳児が摂取すると中毒になる可能性もあります。1歳以上になって腸内で繁殖することがなくなれば大丈夫。黒砂糖も同様です。



噛み砕いて 与えるのはやめましょう

虫歯(ミュータンス)菌やピロリ菌は、赤ちゃんは持っていない細菌で、保有者である大人の唾液を通して感染すると言われています。大人が噛み砕いた食べ物を与えると、感染の可能性が高くなります。大人が使った箸やスプーンで赤ちゃんに食べ物をあげることも避けましょう。

食物アレルギーに注意を！

食物アレルギーは、特定の食物が原因でじんましんやかゆみ、咳などの症状が起こります。特に乳幼児期は鶏卵や乳製品、小麦が原因となることが多いですが、成長とともに食べても症状を起こしにくくなるといわれています。

中には原因となる食物を誤って食べることで、重篤な症状(アナフィラキシー)を発症する子どももいます。そのため、アレルギーの原因となる食べ物の情報をパパやママからよく聞いて、十分に注意する必要があります。

パパやママが食べさせたことがないものは食べさせないようにしましょう。

知っておきたい子育て事情 幼 児 期

いつかは取れるオムツ

トイレトレーニングは2歳前後に始める家庭が多く、3歳ごろになると早くおむつを外したい気持ちから、焦り始めるパパやママがいます。そんな時はじいじばあばが「大丈夫、いつか必ず取れるから」と声を掛けてあげましょう。「のんびりでいいよ」という言葉で、パパやママの不安が解消されるでしょう。

ワークライフバランスを

子育てをしながら仕事を続ける女性が増え、ワークライフバランス（仕事と生活の調和）が推進されています。「イクメン」と呼ばれる子育てに積極的に関わるパパも増え、ママの気持ちにもゆとりが生まれるなど、夫婦の信頼関係を深めることにつながります。

子供を預けて働くときや、保育園のお迎え時間に間に合わない、子供が病気でも会社を休めないなどの場合も出てきます。

いざという時に頼りになるのは、祖父母の存在です。できる範囲で協力してあげましょう。



祖父母ならではの遊びを伝えて

最近はゲームや、電池式のおもちゃが多いのですが、子供には自分で工夫をしながら遊ぶおもちゃを与えたいもの。特に手先を使う昔の遊び、例えばコマ回しやけん玉、お手玉、あやとり、折り紙など、昔ながらの遊びは祖父母の得意とするところです。また、砂遊びや泥んこ遊び、小石拾いや昆虫採集など、自然に親しむ遊びも子供は大好き。パパやママに代わって、一緒に楽しむ時間を作っては？

買う前に相談を

孫に何かプレゼントを買いたい、と思うなら、事前にパパ・ママに聞いておく方が安心です。甘やかしたり、「買ってあげたい」という気持ちのまま欲しがるものを買って与えすぎると、パパやママから迷惑がられることも。

また、おもちゃは本来、感性や想像力、体力、知力など子供の心と体の成長に必要な宝物。量よりも質を考え、ブロックや積み木のように何通りも遊び方があったり、答えを見つけたりするようなおもちゃがお勧めです。

危険がいっぱい！要チェック

孫を預かるときの家の中の危険度チェック

じいじ・ばあばの家は、「大人に危険がなく大人に便利な部屋」になっています。まずは、赤ちゃんと同じ目の高さになって、家の中を見てみましょう。これまでに見えなかった様々な危険に気づきます。

●転倒・転落

家庭内で一番多い事故と言われているのが転倒・転落です。つかまり立ちをしようとして転倒したり、段差でつまずいたり。特に階段は大きなけがにつながるので注意が必要です。危険な箇所にはベビーフェンスを設置しましょう。

●誤飲

子供は好奇心旺盛です。気になったものは手で触れたり、口に入れたりします。「触ってはダメ！」という前に危険なタバコや薬などは子供の手の届かないところへ置くようにしましょう。また、床にボタンやペットボトルのキャップを落とさないに、注意が必要です。

●やけど

家の中でのやけどで多いのが、コーヒーやスープなどを倒したり、ポットの湯気に手を伸ばしてみるなど、テーブルの上にあるものが原因のものが多くみられます。テーブルクロスも手が届く長さだと引っ張ってしまう可能性がありますので注意しましょう。

転倒・転落



コンセント



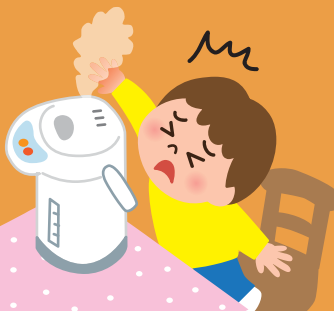
誤飲



水まわり



やけど



コード・紐



●コンセント

子供の目線にあるコンセントも要注意！濡れた手で触ったり、金属部分に触れてしまうと感電する危険があります。コンセントカバーをつけたり、子供の手に触れない工夫をしましょう。

●水まわり

水遊びが大好きな子供にとっても、水は危険なものになってしまうことがあります。例えば、お風呂場でお湯を溜めている浴槽に落ちたり、洗面器の水でも子供は溺れてしまう可能性があり危険です。浴槽に水は溜めないようにしたり、子供の手が届かない場所に簡単な鍵をつけたりすると良いでしょう。

●コード・紐

子供にとってはコードや紐も好奇心の対象です。遊び半分で紐を首に巻いたり、コードを口に入れてしまったり…。大人にとっては危険ではないと思っても子供には危険なものが家の中にはあります。もう一度、子供の目線で家の中をチェックしてみましょう。

知っておきたい子育て事情

学童期

孫の心のオアシスとして

昔は親に怒られるとおじいちゃん、おばあちゃんが逃げ場でしたが、核家族化が進んだ現代、子供たちには昔のような逃げ場が少なくなっているようです。

子供にとって「甘え」も必要。孫にとっての「心のオアシス」として、会えるときにはたっぷりと甘えさせてあげてください。

子供と体力

現代の子供たちは体格が向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していると指摘されています。将来的にも国民全体の体力低下につながり、生活習慣病

の増加などにより社会全体の活力が失われることになりかねません。

特に屋外で遊んだり、スポーツに親しんだりする機会を意識して確保する必要があり、積極的に体を動かす機会を作ってあげましょう。



学童期の遊び

学校ではいろいろなスポーツを経験しますので、学童期からは、普段学校ではあまり経験しない遊びや体験と一緒に楽しむことをお勧めします。

- 登山、キャンプ、ウォーキング、列車の旅など
- バーベキュー、魚釣り、ボウリングなど
- 歴史巡り、美術館・博物館での鑑賞、図書館の利用など
- 将棋、囲碁、絵画、昔の遊びなど祖父母の趣味が活かせるもの



知っ得

そのほかのお勧めの遊び

自然体験 自然観察

自然の中で素朴な感性を伸ばし、五感を使って自然を体感する喜びを味わえるのでオススメ。落ち葉などでクラフトを作ったり、遊び道具にしたりして創造力を高めます。

ニ ュ ー ス ポ ー ツ

ドッチビーやフライングディスクゴルフ、グラウンドゴルフなどのあらゆる世代がハンディなく遊ぶことができるスポーツでは、年齢を超えて交流でき、仲間意識が育ちます。

室内遊び

オセロやトランプ、カルタ取りなどの集団遊び、折り紙やけん玉、お手玉なども。

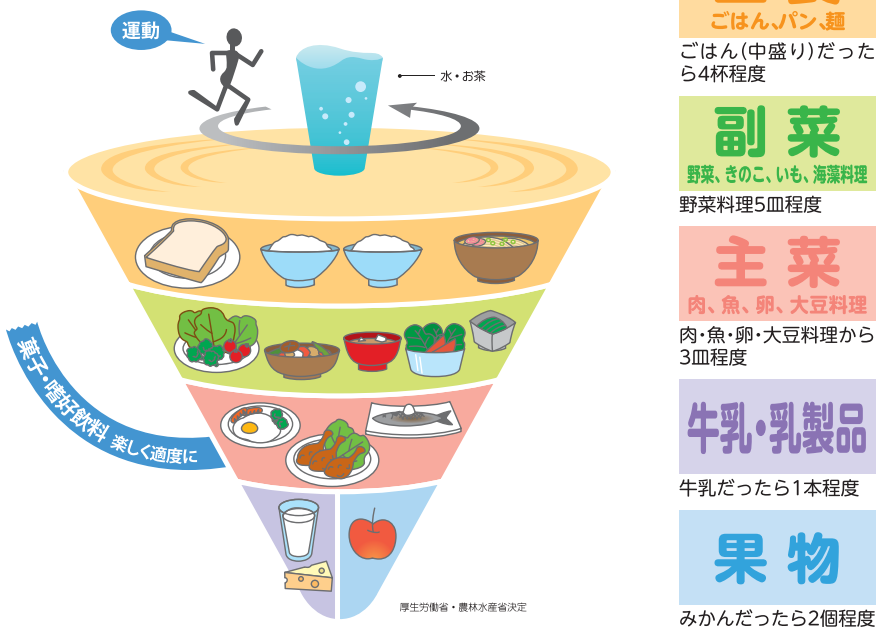
食を通じて育む

「食」は、成長期だけではなく生涯を通して、心身の健康と豊かな人間性を育みます。

手間ひまかけた料理や季節感あふれる食卓など、日本の伝統的な食文化を次世代に伝えるためにも、時には愛情込めた手作り料理を孫に食べさせてあげましょう。

一日に必要なエネルギーと食事の量

食事バランスガイド



子供の目安量

女 6～11歳
男 6～9歳

1400～
2000kal

女 12～17歳
男 10～11歳

2200～
±200kal

男 12～17歳

2400～
3000kal

地域ぐるみで子育て支援

近年、都市化による地域コミュニティの希薄化、核家族化などにより、家庭や地域の子育て機能が低下しており、育児不安の大きな要因となっています。

子育てに悩みや不安はつきものですが、周囲の温かいまなざし、ちょっとしたアドバイスや手助けで軽減されることも多いものです。子供をもつ人誰もが安心して子育てができ、子供がのびのびと成長できるよう社会全体が子供と子育てを応援する意識をもち、それを実践できる地域社会づくりが求められています。

祖父母世代には、子供達の登下校や見守り、学校・保育所・幼稚園等の行事への参画など、それぞれに出来ることをまず一歩踏み出してください。

広まりつつあります！ “孫育てのための休暇制度”

国は、次世代育成支援対策推進法による行動計画の策定の指針において、孫の学校行事や通院等のための休暇制度や、孫が生まれる際に取得することができる休暇制度の創設を促しています。

既に、広島県内でも複数の企業で取組が始まっています。
みんなで、育児環境をより良いものにしていきましょう！



「子育て世代」に聞きました

ありがとう

言われて・されてうれしかったこと

料理に工夫をして食べさせてくれる

上の子の習い事や幼稚園の行事の時に、下の子の面倒をみってくれる。

かわいい服や好きそうなおもちゃを見つけたら、買って送ってきてくれるのでうれしい。

子供が病気になった時、わざわざ遠くから手伝いに来てくれた。おかげで仕事に行けて本当に助かった。

遠方の実家に里帰りしたときは、日頃手伝えない分…と言って、何から何までやってくれる。

仕事で遅くなった時など、保育園にお迎えに行ってくれる。とても感謝している。

1日子供の世話をしてもらえたので、久しぶりに夫婦で食事に行けた。

自分たちの子育てを認めて、大丈夫だよと言ってくれたこと。



ちょっと切ない

言われて・されてイヤだったこと

昔の子育ての話も参考になるが、今の子育ての話も少しは聞いて欲しい。

勝手にチョコレートやあめを食べさせていた。ひとこと聞いて欲しかった。

よその孫と競い合わないで欲しい。

1才で保育園に入れたら、「かわいそう」と言われた。

孫かわいさで、行くたびにおもちゃをかうこと。

風邪を引くから、もっと服を着せなさいと言われる。

「つわりは病気じゃないから」と言われた。



「祖父母世代」に聞きました

ありがとう

言われて・されてうれしかったこと

誕生日のお祝いメールをくれた。

「ありがとう」や「気をつけて」と孫から声をかけてもらえる。

ばあちゃんばあちゃんと言ってくれる。

孫を連れて遊びに来てくれるだけでうれしい。

一緒に過ごすとパワーをもらえる。

孫と一緒に暮らしてくれてうれしい。

孫が祖父母に優しく接するよう育ててくれている。

一番かわいい時期にたくさん世話ができて、とてもよい時間が過ごせた。



ちょっと切ない

言われて・されてイヤだったこと

荷物を送っても届いた連絡をくれない。

昔の子育ての話にまったく耳を傾けてくれない。

服を買ってあげたのに、着せてくれない。

都合のいい時だけ呼ばれ、出かけたついでに寄ると嫌な顔をされる。

一緒に出かける時に、必ずスポンサーにされる。

孫を連れて遊びに来てくれない。

孫から荒っぽい言葉が使われた。



ボランティア窓口・子育て支援のサークル

子育て支援にもっと関わりたいと思っている方や地域活動に興味をお持ちの方は、次の相談窓口にご連絡ください。みなさんの豊富な経験が求められる場所がたくさんあります。

名 称	電話番号	所 在 地
広島県社会福祉協議会	082-254-3411	広島市南区比治山本町12-2
広島市社会福祉協議会	082-264-6400	広島市南区松原町5-1 広島市総合福祉センター内
広島市中区社会福祉協議会	082-249-3114	広島市中区大手町四丁目1-1
広島市東区社会福祉協議会	082-263-8443	広島市東区東蟹屋町9-34
広島市南区社会福祉協議会	082-251-0525	広島市南区皆実町一丁目4-46
広島市西区社会福祉協議会	082-294-0104	広島市西区福島町二丁目24-1
広島市安佐南区社会福祉協議会	082-831-5011	広島市安佐南区中須一丁目38-13
広島市安佐北区社会福祉協議会	082-814-0811	広島市安佐北区可部三丁目19-22
広島市安芸区社会福祉協議会	082-821-2501	広島市安芸区船越南三丁目2-16
広島市佐伯区社会福祉協議会	082-921-3113	広島市佐伯区海老園一丁目4-5
呉市社会福祉協議会	0823-25-3509	呉市中央五丁目12-21 呉市福祉会館
竹原市社会福祉協議会	0846-22-5131	竹原市中央三丁目13-5
三原市社会福祉協議会	0848-63-0570	三原市城町一丁目2-1
尾道市社会福祉協議会	0848-22-8385	尾道市門田町22-5
福山市社会福祉協議会	084-928-1330	福山市三吉町南二丁目11-22
府中市社会福祉協議会	0847-47-1294	府中市広谷町919-3
三次市社会福祉協議会	0824-63-8975	三次市十日市東三丁目14-1
庄原市社会福祉協議会	0824-72-7120	庄原市西本町四丁目5-26
大竹市社会福祉協議会	0827-52-2211	大竹市西栄二丁目4-1
東広島市社会福祉協議会	082-423-2800	東広島市西条町土与丸1108
廿日市市社会福祉協議会	0829-20-0294	廿日市市新宮一丁目13-1
安芸高田市社会福祉協議会	0826-42-2941	安芸高田市吉田町常友1564-2 安芸高田市保健センター内
江田島市社会福祉協議会	0823-40-2501	江田島市能美町鹿川12060
府中町社会福祉協議会	082-285-7278	安芸郡府中町浜田本町5-25
海田町社会福祉協議会	082-820-0294	安芸郡海田町日の出町2-35
熊野町社会福祉協議会	082-855-2855	安芸郡熊野町中溝一丁目11-1
坂町社会福祉協議会	082-885-2611	安芸郡坂町平成ヶ浜一丁目3-19
安芸太田町社会福祉協議会	0826-32-2226	山県郡安芸太田町中筒賀2802-5
北広島町社会福祉協議会	0826-82-2680	山県郡北広島町大朝2513-1
大崎上島町社会福祉協議会	0846-62-1718	豊田郡大崎上島町木江5-9
世羅町社会福祉協議会	0847-22-3162	世羅郡世羅町西上原426-3
神石高原町社会福祉協議会	0847-85-2330	神石郡神石高原町小島1748

県内シルバー人材センター

名 称	電話番号
公益社団法人 広島市シルバー人材センター	082-223-1156
公益社団法人 呉市シルバー人材センター	0823-21-6611
公益社団法人 竹原市シルバー人材センター	0846-22-3331
公益社団法人 三原市シルバー人材センター	0848-63-2266
公益社団法人 尾道市シルバー人材センター	0848-20-7700
公益社団法人 福山市シルバー人材センター	084-953-5222
公益社団法人 府中市シルバー人材センター	0847-47-6120
公益社団法人 三次市シルバー人材センター	0824-62-7800
公益社団法人 庄原市シルバー人材センター	0824-72-1135
公益社団法人 大竹市シルバー人材センター	0827-57-6100
公益社団法人 東広島市シルバー人材センター	082-426-4683
公益社団法人 廿日市市シルバー人材センター	0829-20-1468
公益社団法人 安芸高田市シルバー人材センター	0826-42-4411
公益社団法人 江田島市シルバー人材センター	0823-42-5211
公益社団法人 府中町シルバー人材センター	082-285-0161
公益社団法人 海田町シルバー人材センター	082-823-2733
熊野町高齢者能力活用協会	082-855-0881
公益社団法人 安芸太田町シルバー人材センター	0826-22-2410
公益社団法人 北広島町シルバー人材センター	0826-72-8421
公益社団法人 世羅町シルバー人材センター	0847-22-5160
公益社団法人 神石高原町シルバー人材センター	0847-89-0121



活動紹介
～地域～

地域で子育てを応援 するプラチナ世代

地域で生きる
「地域人」を育てる
居場所づくり

廿日市市大野第六区

「大野第六区子どもの居場所づくり委員会
(大野第六区子ども塾)」

「六区子ども塾」は、地域の小学生を対象に、年間24回のカリキュラムを行っています。一回ごとに勉強時間の後、JAさんとサツマイモを植えたり、近くの公園への遠足、手品や折り紙の教室、将棋教室や絵手紙教室など、地域の様々な人材を活用して取り組んでいます。

また、敬老会への出演や文化祭への作品出品、地域の集会への参加など、できるだけ発表の場につなげ地域との交流も深めています。最初

は集団になじめなかった子どもが、次第にルールを身に付けたり、積極的に関わるなどの成果がみられています。

今の多くの子どもたちはコミュニケーション力を身に付けないまま、行き場を失っています。私たちは、この子どもたちに、地域で生きる「地域人」に育って欲しいとの願いをもって、居場所づくりに取り組んでいます。

昔ながらの
遊びを通して
好奇心を育む

庄原市東城町

「BookCabin ちゃちゃ(百姓庵「紡」)」

体験型農家民宿一角に 絵本・児童書・まんがなど子どもから大人まで楽しめる本の小屋～ BookCabinちゃちゃ～があります。

「BookCabinちゃちゃ」では、絵本の読み語りや「ばあばの昔語り～昭和のあそびを一緒にやってみよう」まりつき歌、かぞえ歌からあやとりなど、昭和30年代を懐かしがってメンバーみんな“おさなごころ”で楽しんでいます。

メンバーは60～70代の元保育士や小学校教員・図書館司書。いつでもどこでもだれでも読み語りを！をモットーに全国で読み語り活動を推進している「この本だいすきの会」東城支部として月1回(第3日曜日10:00～12:00)BookCabinちゃちゃを開放しています。

また、本の小屋の周辺は自然豊かな里山で、野菜の収穫やヤギさんへ餌やり・ワイルドガーデンを散歩するニワトリたちに触れたり、昆虫・野鳥・草花の観察 木登りや裏山の探検など、子どもたちの好奇心をくすぐる活動もいっぱいです!!

「自分たちが楽しむこと！そして先人たちの知恵や文化を次の世代に紡ぐこと！」を合言葉にメンバーで日々取り組んでいます。





生協ひろしまの取り組み

行政(広島県・市町)との包括的連携協定を締結し
少子高齢社会の課題解決に取り組んでいます

生協ひろしまは、【子育て支援・プラチナ世代支援・高齢者支援・健康づくり】において、特に2003年より「広島県健康福祉局」と日常的に情報交換を行いながら、連携を築いてきました。2019年4月からは、この連携項目において「広島県健康福祉局」と「生協ひろしま」が「覚書」を締結し、あらためて、双方が掲げている理念・目指す姿において、連携の力で、実現しています。また現在、広島県下の市町との包括的連携協定が広がっています。

生協ひろしまの子育て支援活動は「子育て同盟」より評価され、2015年度の「子育て応援企業賞」を受賞しました。

※「子育て同盟」とは…人口減少・少子化に歯止めをかけるため、子育て支援施策に意欲的に取り組む自治体が、平成25年4月に発足。
現在、広島県を含め、14県が加盟しています



はじめてママ。はじめてコープ

chuki*chuki
ちゅきちゅき
CLUB

赤ちゃんのいるママに
お得と安心がいっぱい!
生協の宅配。

毎月2商品(下記の商品)をプレゼント!
配送料 無料!

『ちゅきちゅき CLUB』4つの特典。

特典
1

たまごや牛乳など9品目の中から1商品を、毎月2回1年間プレゼント。
※商品は、予告なく変更の場合がございます。



特典
2

生協の個人配送手数料が、
スタートから最大2年間
無料でおトク。

特典
3

便利で楽しい
子育て情報誌を、
2年間毎月お届け。

特典
4

持って安心&便利!
「ちゅきちゅきCLUB
パスポート」をプレゼント。

登録できる期間は、妊娠されてからお子さまが満1歳になるまでの間。「ちゅきちゅきCLUB」サポート適用期間は、登録後、2年間です。

『ちゅきちゅき CLUB』のお申し込み・お問合せにつきましては



生協ひろしま 組合員サービスセンター



0120-500-935

受付時間/8:30~21:00(日曜日休業)お申し込み・お問い合わせもお気軽にご連絡ください!



一般社団法人 孫育て検定協会の取り組み

育児を通して多世代の交流を支援しています

孫育ては多世代の交流を促進する鍵になります。我が孫の育児支援が地域で子育てを応援するきっかけとなります。そのためには、現在の子育てに関する知識を深めていく必要があります。そこで、祖父母世代の方を対象に、孫育て検定協会は『孫育て講座/検定』を通じて「現代子育ての基礎知識」「保育知識」「食育の知識」などを学び、世代間のギャップを埋め、自信を持って、子育て・孫育ての支援に関わっていく為の応援をします。また、子供からお年寄りまで楽しめるニュースポーツ、孫とじいじ・ばあばとのコミュニケーションを深める『孫旅』や『自然観察』などの体験会の普及にも務めています。

孫 旅

複雑な現代社会は子供世代にもいろいろな影響を与えており、精神的にも悩みをかかえている子供が少なくないと言われています。

そんな時、日頃のストレスには旅に出るのも効果があると思います。

今、祖父母と孫と一緒に旅をする「孫旅」が人気です。非日常体験をすることでいろいろな出会いと学びがあります。祖父母だから出来る、パパやママの子供時代の話などに目を輝かせて聞いてくれるでしょう。

また、祖父母にとっても一緒に旅することは良き思い出となります。



【お問い合わせ】一般社団法人孫育て検定協会

代表理事 山崎 勇三

〒739-1743 広島市安佐北区倉掛2-49-3

URL <http://magosodate-kentei.jp/>

MAIL har88860@snow.odn.ne.jp

気軽にできる遊び紹介します

乳幼児のころ...

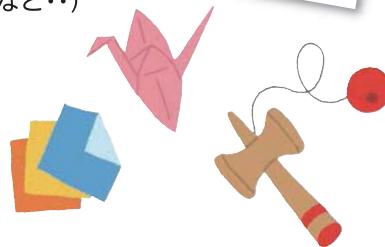
- 絵本の読み聞かせ
- いないいないばあ
- かくれんぼ遊び
- かたぐるま
- 追いかけてつかまえて抱っこ



幼児期・学童期になると...

- あやとり
- おりがみ
- 手あわせ遊び
(みかんの花・茶摘みなど...)
- ジャンケン列車
- お散歩
- けん玉
- コマ回し
- 竹の水鉄砲
- 将棋
- UNO

最近は勉強や料理、スポーツなどを一緒に楽しむ方も増えています!!



困ったときは

●広島県小児救急医療相談電話

夜間に子供が急病になったときに、受診の必要性やご家庭でできる応急処置などをアドバイスします。

毎日 19:00～翌 8:00

局番なしの **#8000**

または **(082) 505-1399**

(ダイヤル回線、I P 電話(050)、ひかり電話、大竹市の固定電話をご利用の方)

●子ども何でもダイヤル

子育てに関する不安や悩み、どんなことでもお聞きします。

毎日 9:00～15:00

※年末年始(12/29～1/3)は除く

(082) 255-1181

●救急医療Net Hiroshima

現在、または指定日時に診療可能な病院、診療所を検索できます。

<http://www.qq.pref.hiroshima.jp>

●こどもの救急 (公益社団法人日本小児科学会)

夜間の休日などの診療時間外に病院を受診するかどうか、判断の目安を提供しています。

<http://kodomo-qq.jp>

広島県の子育てポータル

イクちゃんネット

<http://www.ikuchan.or.jp/>



イクちゃんサービス
参加店のマーク

子供と一緒に楽しめるイベントや、子供と子育て家庭にやさしいサービス(イクちゃんサービス)を提供する店舗、急な病気になる時の情報など、子育てに役立つ情報がいっぱいのサイトです。



携帯やスマートフォンから
もご利用いただけます。



●教えてドクター



「教えてドクター」は、2010年10月から2013年2月まで中国新聞の朝刊に掲載された記事です。(計100回)。

子供の病気に関して、専門のお医者さんがわかりやすく解説していますので、お役立てください。

<http://www.ikuchan.or.jp/navi/cat5166/>

●お悩み相談・体験談

このサイトでは、広島県のパパママ、全国のパパママの子育てのお悩みや体験談・アドバイスを検索できます。また、お悩み相談したい方は、kids☆めるまが会員から体験談やアドバイスを寄せていただき、ちょい先パパ・ママの体験談&アドバイスに掲載いたします。

<http://www.ikuchan.or.jp/advice/index.html/>